

沖縄型金型

芽吹く技術

<10>

もいる。

「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼いたします」。学校中に生徒たちの大きな声が響く。那覇市の沖縄工業高校では、実習授業の前に全科統一で「沖工訓練」を実施する。八つのあいさつを大声で復唱し、生徒同士で服装をチェック。最後は校歌で締めくくると。教員らは「人間としての成長」を第一の教育に掲げている。

同校電子機械科は生徒たちの勉強意欲を促進するため、国家資格の取得を推進している。旋盤作業などの技能検定のほか、電気工事士や危険物取扱者など、卒業時には2桁以上の資格を有している生徒もいる。

同科の生徒を中心に構成する機械工作部の活動も活発だ。ものづくり大会や溶接競技大会など、県内外で優秀な成績を収めている。大会に参加することで、県外との技術力の差を埋める狙いがある。九州や全国大会での活躍が県外企業の目に留まり、学校見学に訪れる企業もあるという。卒業後の進路は、就職が7〜8割を占める。そのうち2011年度の就職者に占める県内の割合は約4割ほど。製造業への就職はほとんどが

人材力
①

興味育てる工業高校



旋盤作業の実習に取り組む沖縄工業高校電子機械科の生徒ら＝2日、那覇市の同校

県外だ。同校進路指導部の企業開拓もあり、県外企業への就職支援は充実している。製造業社も多く、就職には魅力的な市場だ。一方、県内就職を志望している生徒も多い。生徒たちにも近年沖縄に進出する企業が増えている現状を伝え、「自分がこの動きにどう参加できるか」を問い掛けているという。

国家資格の取得推進

県教育庁県立学校教育課によると、11年度に工業系学科がある県内10校を卒業した生徒は約1400人。そのうちの8校に金型産業の基礎を学ぶ機械系学科があり、約500人の生徒が卒業した。

美来工科高校機械システム科も資格取得を推進している。2年前から金型製造で工具の軌跡をプログラミングする技能士検定、「機械加工マシニングセンター作業」の指導を開始した。昨年は6人が合格。県内では同校と那覇工業高校のみが取得指導をしているという。企業へのアピールと、学生の製造業に対する関心を強める狙いがある。

同科の比嘉靖主任は工場見学や職場体験など人材育成における企業との連携強化が必要だと指摘する。「企業がどんな技術をもった人材がほしいか」という情報があれば、工業高校の生徒も準備がしやすい」と要請した。(長嶺真輝) (水・金曜掲載)